

ヒューマンライフケア
グループホーム市川
堀田タ子・ホーム長

ヒューマンライフケア（東京都新宿区）が千葉県市川市で運営する「ヒューマンライフケアグループホーム市川」（定員18人）ではスタッフが入居者に主体的にかかわり、認知症ケアに取り組む。コスト面の見直しにも力を入れ、水道料金を大きく削減するなど効率的な施設運営を実現させていている。

ヒューマンライフケアが事業承継した2008年開設の同施設は、自宅で親の介護を経験したなどの理由から、2013年にヒューマンライフケアが事業承継を経た。同社は社内に教育機関「ヒューマンライフケアカレッジ」を持つ。また、同社は社内に教育機関「ヒューマンライフケアカレッジ」を持つ。同社は社内に教育機関「ヒューマンライフケアカレッジ」を持つ。

14人の介護スタッフも全員研修の資格取得を後押し

全スタッフが有資格者 教育体制 充実



▲「グループホーム市川」の外観

員介護福祉士やヘルパー1級の有資格者。正しい知識と経験を有するスタッフを配置すること

がいる」という。

職員の意識改革

無駄遣いなくす

する。各種資格の取得に際しての受講割引も行なうなど、意識の高いスタッフがスキルアップを図りやすい体制を敷く。

1回は行う家族への写真付きの入居者の状況報告も好評だといい、この取り組みが万一双の際のリスクをなくそうとした

水道代 大幅削減

する。各種資格の取得に際しての受講割引も行なうなど、意識の高いスタッフがスキルアップを図りやすい体制を敷く。

1回は行う家族への写真付きの入居者の状況報告も好評だといい、この取り組みが万一双の際のリスクをなくそうとした

介護 Biz



▲知識や技術、経験の高いスタッフがサービスを提供する

の水量調節(無料)を施すなど、館内全36カ所の蛇口の内、21カ所を見直した。

費用を要したのは節水バルブを導入した6カ所(9万円)のみだが、

昨年5月末の導入から半年間で、一

スで水道代を節約でき

が、売上や利益の話はスタッフも理解しなかったため、水道光熱費の各種料金をスタッフに伝え、数字を示すことで意識改革を促した」(堀田ホーム長)

さらに、アクア・プラン(大阪市)の流量調整バルブシステム「節水バルブ」を使用頻度の高い1~2階の浴室のシャワートーと蛇口、脱衣所の洗面台、計6カ所に導入した。毎分15~16リットルの噴出量があつたシャワーは、スタッフにとって使い勝手が悪くなり入居者にどうでも使い心地の良いという。同社では売上の良い施設に対して年2回、福利厚生として表彰金を出していただきたい」と話す。また、同社では売上の良い施設に選出されるのみならず、表彰金もスタッフに還元する」と話す。また、同社では売上の良い施設に選出されるのみならず、表彰金もスタッフに還元する

ことから入居者を生まれ育った故郷に連れて行

く旅行もしてみたい」(堀田ホーム長)と目標を語った。

田ホーム長」と目標を語

りた。

夕子ホーム長が中心となる改革を実施。「洗剤がすぐなくなる、電気の消し忘れ、夏でも乾燥機で洗濯物を乾かすなどの無駄をなくそうとした

が、止水栓で止水栓の大額削減に繋げた。ほかに

も使用頻度

の高い蛇口

は止水栓で

シャワーなどの噴出量を見直すことで水道